

スポーツマンシップを広めるには…

杉田ゼミ 江成竜哉 清水直樹 藤田峻輔

1. 目的

勝利至上主義が広まるなかで、スポーツマンシップが勝利至上主義を抑制するカギになるのではないかと思い、スポーツマンシップについて考察した。

2. 研究方法

母校を訪問し、スポーツの教育をする上で心掛けている点などをインタビューした。文献を調査し議論を重ねた。

3. 概要

日本のスポーツの歴史において、武士道から軍事教練、そして現代体育という流れがある。その中の軍事教練には上下関係やしたきり、体罰といった特徴がある。一方で、現代のスポーツの思想として、勝てばいいという考え方がある。その二つが合わさったものを勝利至上主義と定義した。

勝利至上主義が広まる理由としては、日本では教育者など周りの目を気にして、教育者にのっとり性格なので主体性が低い傾向である。そして、それは昔から根付いていた。勝利至上主義のような勝つことが全てという考えを持ってスポーツを行うのは楽しくないのではないかと考えた。

スポーツを行う上で必要なものは、相手や審判などを尊重し合うことが大事であり、勝つことだけではスポーツは成り立たない。そこで、私たちはスポーツマンシップを広めるための方法を考えた。

4. 結果

スポーツマンシップの考えを持つには主体性が重要だと考えている。そのうえで主体性を持たせるために教育方法を見直すことを提案する。